令和３年度

運営に関する計画

（最終反省）

大阪市立新東淀中学校

○ 学校教育目標

自律した個人として自己を確立させ、他者と協力しこれからの社会を担うことをめざさせ、心豊かに力強く生き抜く力を育む

目　　次

学校運営の中期目標		……	1
中期目標の達成に向けた年度目標		……	2
最重要目標	子どもが安心して成長できる安全な社会	……	4
最重要目標	心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上	……	11
	その他	……	20

大阪市立新東淀中学校　令和３年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1.学校運営の中期目標

現状と課題

〇生徒の問題行動は減り、一定の落ち着きのもと学習を進めているが、学校生活に馴染めず不登校となっている生徒の割合が高い。小学校時よりの課題を引きずる生徒もいるが、中学校で不登校にならないような生徒の集団育成を推進する。

〇令和2年度大阪府1・2年生チャレンジテストの分析より、各学年とも国語では「書く」分野、数学では「関数」分野で課題があるという結果がある。そのような結果とともに、子どもたちは、基礎学力の定着不足から学習から逃避し、問題行動に走る可能性を持つ状況に変わりはない。そのため授業で生徒がわかると感じる授業を創造し基礎学力の定着を図るとともに、家庭学習習慣を身につけさせ、自ら学ぶ姿勢を育成する。

〇過去の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、男子も女子も、毎授業で「ランニング、ラジオ体操、トレーニング、ストレッチ」などを取り入れるなどの授業工夫の結果、大阪市平均や全国平均を上回る結果がみられる種目もあり、徐々にではあるが成果が表れてきている。しかしながら、大阪市平均を大きく下回る結果となっている種目については今後の大きな課題であると考えている。
課題解決に向けては、引き続き、授業づくりの工夫を推進するとともに、部活動の振興と充実に加えて、新たに生徒が関心を持って自ら取り組みたくなるようなトレーニング機器や施設等の整備を行い、生徒が運動やスポーツに親しむ環境や機会を確保する取組を進め、生徒の体力・運動能力の向上を図る。

〇本校は、学校が校区外にあるというハンディーを抱えるが、目指す子ども像として「地域を愛し、地域に頼られる生徒」をあげている。各地域での行事や地域防災訓練等に、各生徒が地域の一員であるという自覚を持ち参加し、より一層「学校・家庭・地域」の連携を深める取り組みを推進する。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

〇令和3年度の不登校の在籍比率を大阪市の目標3.7%より低くする。

〇令和3年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。

〇令和3年度の校内調査における「学級・学年でいじめがおきない雰囲気がある。」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。

〇令和3年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を65%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

〇令和3年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。

〇令和3年度の全国学力・学習状況調査における「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない。」と答える生徒の割合を40%以下にする。

〇令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を「男子45、女子45」以上にする。

【その他】

〇２月の小学６年生アンケートで、「小中連携の取り組みで４月から始まる中学校生活の参考になりましたか？」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を９０％以上にする。

〇令和3年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80％以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

〇令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95％以上にする。

〇令和3年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を90％以上にする。

〇令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

〇令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

〇令和3年度末の校内調査において、「学校生活は楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を85％以上にする。

〇令和3年度の不登校の在籍比率を前年度より低くする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

〇令和3年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

〇令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均の７割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント以上減少させる。

〇令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント以上増加させる。

〇令和3年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

〇令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、過去の記録から課題となる全国平均を下回る種目について記録を向上させる。

学校園の年度目標

〇令和３年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を７５％以上にする。

〇令和３年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、平日１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない」と答える生徒の割合を３５％未満にする。

〇令和３年度末の校内調査において、「自分の健康に関心をもっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を８５％以上にする。

【その他】

○２月の小学６年生アンケートで、「小中連携の取り組みで４月から始まる中学校生活の参考になりましたか？」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を９０％以上にする。

○令和３年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を８０％以上にする。

3　本年度の自己評価結果の総括

「学校生活に関するアンケート（生徒用・保護者用・教職員用）」「授業アンケート」等のアンケート結果からみると、多くの項目において目標は概ね達成することができた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
本年度も新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から生徒が安全で安心して登校できるように消毒活動及び健康観察の徹底、設備の充実等に尽力した。また、行事等についても安全で安心して実施できる状況を踏まえて行事を精選しながら行った。生活指導においては社会生活を送るうえで普遍的な規範の一つである「時間を守る」の指導を徹底することで集団生活をよりよく過ごすためにはルールを守ることが必要という自覚を持たせ、自律心を育成する取り組みを推進した。また、今年度も昨年度同様、「登下校時の態度」にも着目し、交通安全の観点からもルールの尊守、周囲への配慮、気遣い等、身勝手な行動をとらないよう促した。その結果、1月に実施した校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」という項目について肯定的に答える生徒の割合を中期目標を上回る97%という成果をあげることができた。
ここ数年増加傾向にある不登校生徒に対しては担任による対応だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、生活指導支援員等を活用し、校内の対策委員会で対応を検討し、実行に移した。しかし、中期目標である「大阪市の目標3.7%より低くする」には至らず、7.2%となった。
それぞれの生徒のニーズを読み取り、将来の社会的自立に向けた視点で柔軟で弾力のある関わりと状況に応じた支援に努めた結果、1月に実施した校内アンケートにおける「学級・学年でいじめが起きない雰囲気がある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合が83%となり、中期目標を上回ることができた。
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
各教科において学力向上をめざした授業づくりを研究・実践したことや校長経営戦略予算などを各種予算を活用して学びサポーターを昨年度同様に6名配置させ、また、学校元気アップ本部事業の活用により感染症対策の観点から回数は削減したものの「土曜自主学習会」や「放課後自主学習室の開放」などの取り組みを行った結果、1月に実施した校内アンケートにおける「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合中期目標を上回る82%となった。
体力の向上については、本年度も感染症拡大予防の観点から水泳大会の中止・体育大会を縮小した形で実施した。今年度の全国体力・運動能力調査において、男子では握力、ハンドボール投げが女子では握力、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、ハンドボール投げが大阪市・全国平均を超える結果となった。今後は、スポーツや体力向上の取り組みとしてだけではなく、心と体を一体としてとらえ，学校教育活動全体を通じて、豊かなスポーツライフの基礎を培うなど、より広がりを持たせることにより、本校の生活指導上の課題の克服、学力向上につなげていきたい。

【その他】
本年度も小中連携については新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から多くの取り組みが中止となった。しかし限られた機会の中でICT機器を利用し、小中連携コーディネーター担当による情報共有の他、コーディネーターによる6年生向け中学校紹介、部活動紹介、学校生活案内劇（演劇部）DVD映像の提供等を実施した。また、少ない時間ではあるが、中学校教員による小学校参観も実施した。若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実については9月上旬から2週間、授業研究週間を設定し、言語活動（読む・聞く・話す：書く）の充実をテーマとして全員が指導案の作成した公開授業又は研究授業を実施した。最終日には3人の新任教員による研究授業を行い、感染症拡大予防の観点から3か所に分かれてワークショップ型の研究協議会を行った。参観した互いの授業について、良い点や改善点を出し合うことにより、更なる授業改革にのぞむ意欲が高まった。これらの成果もあり、校内アンケートにおいて「先生は教え方を工夫している」の項目について肯定的に答える生徒の割合は91％となり中期目標を達成することができた。

大阪市立新東淀中学校　令和３年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年　度　目　標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校）（再掲）	B
○令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
○令和３年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を９５%以上にする。	
○令和３年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	
○令和３年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	
学校の年度目標（再掲） ○令和３年度末の校内調査において、「学校生活は楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を８５%以上にする。 ○令和３年度の不登校の在籍比率を前年度より低くする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】		B
取組内容	［生活指導］ 社会生活を送るうえで普遍的な規範の一つである「時間を守る」「言葉づかいをていねいにする」の２項目の指導を徹底し、集団生活をよりよく過ごす為にはルールを守ることが必要という自覚を持たせ、自律心を育成する。 集団生活のルール（校則・心得）や生徒手帳にある生徒会申し合わせ事項等を年度当初に確認し、校内外で安全で安心して生活できる集団作りに努める。 指導が繰り返し続く生徒には、本人の背景や状況を把握し、組織的に対応することで状況の改善を図る。 不登校の生徒に対して、担任の家庭訪問だけに頼るのでなく、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等を活用し、校内の対策委員会で対応を検討する。単に「登校させる」ことだけを問題解決の目標にするのではなく、将来の社会的自立に向けた視点で、柔軟で弾力のある関わりと状況に応じた多様な支援に努める。 昨年度より始まった「大阪市こどもサポートネット」を、今年度も学校を挙げて連携・活用していく。	
指標	校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある」 に対して肯定的に回答する生徒の 割合を前年度以上とする。 学期初めの生徒集会・学年集会等で、集団の状況を踏まえ目標を確認する。また、トラブルが生じた時に、学級・学年全体指導を通してルールの確認を行う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容	［防災・減災教育の推進］ 東淀川区役所、東淀川消防署、東淀川社会福祉協議会、菅原・新庄・下新庄の地域防災リーダーと連携しての「防災研修」、学校全体での「避難訓練」、各学年の状況に応じた「防災学習」を実施し、防災・減災について考えさせるなかで、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と、支援者となる視点から安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。	B
指標	防災に関する授業を年間２時間以上実施する。	
取組内容	［安全教育の推進］ 大阪府警本部、東淀川警察署と連携し、「非行防止防犯教室」や「交通安全教室」を開催し、ラインやＳＮＳによるトラブル・インターネット上のいじめや、夜間外出での犯罪被害の防止に向けた取り組みを推進し、学校生活を含め生活全般において子どもの規範意識の醸成を図る。 交通の危険について理解を深め、 安全な歩行や自転車の利用を指導する。 また、薬物乱用防止教育講師による「薬物乱用防止教室」を開催し、生徒たちが薬物乱用の実態や心身への影響、依存症、疾病との関連や社会への影響などについて考え、正しく理解する機会を設ける。	B
指標	校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある」 に対して肯定的に回答する児童生徒の 割合を前年度以上とする。	
取組内容②【施策２　道徳心・社会性の育成】		B
取組内容	［道徳教育の推進］ 「特別の教科道徳」の年間の取り組みを通して、生命の尊厳やルールの遵守などの道徳的価値を見出させる。外部講師による講話、文化発表会・芸術鑑賞など学校の教育活動全体を通じて、情操教育の推進すると共に、学校の教育活動全体を通じて多角的・多面的に物事を考える力を育成する。	
指標	道徳アンケートを行い授業の現状と生徒の理解度を把握し、今後の教育活動の推進に活かす。また、校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある。」に対しての肯定的な割合を前年度以上とする。	
取組内容	［キャリア教育の充実］ 社会的・職業的自立に向け、自他の理解能力等の諸能力や生徒の勤労観・職業観を育てるため、企業や団体の協力による職業講話や職場体験学習などを実施することよりキャリア教育を推進する。	B
指標	校内アンケートにおける「先生と将来の進路や生き方について話ができる」 に対して肯定的に回答する生徒の 割合を前年度以上とする。	
取組内容	［人権を尊重する教育の推進］ 自他の人権を尊重できる態度を育てるため、生徒同士や生徒と教師間のコミュニケーションを大切にした教育活動を行う。また、人権作文、人権ポスター等を掲示し生徒の興味や関心を高める。	B
指標	校内アンケートにおける「いじめがおきない学校づくりに積極的に取り組んでいる。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容	［インクルーシブ教育システムの充実と推進］ 変わりゆく特別支援教育を理解し、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行う。インクルーシブ教育システム構築のための基本的な環境を整える。	B
指標	特別支援教育にかかわる生徒一人一人の教育的ニーズに対して、専門家による指導助言を年1回以上受け、適切な指導及び支援を行う。	
取組内容	［芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出］ 文化芸術は、他者に共感する心を通じて、人と人とが相互に理解し、尊重し合う土壌を提供するものであり、人間が協働し、共生する社会の基盤となることから、社会的財産であると言える。そこで「芸術鑑賞」や「学校行事・地域行事での吹奏楽部の演奏・演技」を通じて、生徒それぞれが、自らが文化芸術の担い手であることを認識する機会を創設する。	A
指標	「芸術鑑賞」や「文化発表会」の事後アンケートでの満足度を８０％以上とする。	
取組内容③【施策３　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】		
取組内容	［保護者や地域住民に開かれた学校運営］ 年３回実施する土曜授業を感染症拡大予防対策を講じたうえで可能な限り、保護者や地域住民に公開するとともに、学校だよりや学校HPを通じ情報発信を行い開かれた学校にする。 また、地域行事へ吹奏楽部を中心に生徒の積極的な参加を推進し、地域との連携を深める。	B
指標	学校だよりを月1回発行し、学校ＨＰを年250回以上更新する。 本校アンケートで「学校が開かれている」と肯定的に回答した保護者の割合を前年度以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】［生活指導］

「時間を守る」指導については、ほとんどの生徒が25分の予鈴までに教室へ入れるようになっている。が、本鈴を大幅に過ぎて遅刻してくる生徒が常態化している。遅刻した生徒に対しての指導・言葉がけを増やしていくことが必要である。「言葉使いをていねいにする」指導については年度当初の集会や日々の活動、生徒との関わりの中で実践しているが、これからも意識し継続して取り組んでいく必要がある。様々な問題行動に対しても、学年生指を中心にきめ細かく個別に指導を行っているが、今後も粘り強く指導し、理解をさせていく必要がある。
不登校の生徒に対して、学校（教員）のみで対応するだけではなく、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーや子育て支援室など外部機関と連携し、将来の社会的自立に向けて、柔軟で弾力的な関わりと状況に応じた多様な支援を行っている。本年度から開始した「大阪市こどもサポートネット」についても、学校を挙げて連携・活用に取り組んでいる。

【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】［防災・減災教育の推進］

4月に火災を想定した避難訓練を実施し、避難経路の確認や、訓練後の消防署の職員による災害発生時の行動についての講話を聞くといった活動を行った。また、１年生では防災リーダーや区役所、消防署等と連携し、実習を伴った学習、２年生ではハザードマップを用いた学習、３年生ではさまざまな自然災害について考える学習を行った。これらの活動や学習を通して自分の命を守るために主体的に行動する態度と防災、減災に対する意識を持たせることができた。学校生活アンケートの「地域や防災に役立ちたい」という項目では、肯定的な回答が８６％と前年度を上回った。

【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】　［安全教育の推進］

今年度は、東淀川警察の方を招いての非行防止教室を行うことができなかったが、生徒指導主事が警察と連携し学年集会でSNSのトラブル等について注意喚起した。薬物乱用防止教室は、対面ではなく、オンラインを活用して実施した。交通安全教室についても、対面での実施が難しいので、交通課と連携し生徒指導主事が実施する予定にしている。
１月に実施した校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある」という項目に対して肯定的に回答する生徒の割合は昨年を上回って９２％であった。生徒一人ひとりが自分の周りで起こりえることを十分に理解し、考えることができるようになった。

【施策２　道徳心・社会性の育成】［道徳教育の推進］

昨年の12月に行われた、第一教育ブロック道徳教育推進拠点校の研究発表会は校内外から多くの教員が研究授業の参観と、研究協議に参加することができた。授業者は２年目の教員であったが、意欲的かつ積極的に教材研究を行った結果、生徒たちも活発に活動が行えていた。この研修会を通して、多くの教職員が道徳授業の在り方について考える機会が持てたと思う。
また、学校生活に関するアンケートでは「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある。」という質問に対して、前向きに解答する生徒の割合は９２％で、前年度より３％アップしている。

【施策２　道徳心・社会性の育成】［キャリア教育の充実］

指標である、校内アンケートにおける「先生と将来の進路や生き方について話ができる」 に対して肯定的に回答する生徒の 割合については、昨年度77％から本年度83％で前年度を大幅に上回った。
2年職場体験学習を１１月に実施した。その事前準備として、２学期に入って「職場体験学習ノート」や「自己アピールカード」や「ＩＤカード」を作成する取り組みを推進し、勤労観や職業観を学ぶための準備をすすめていただいた。3年はよりよい進路選択に向けて進路学習を進めている。学年だよりにおいて進路情報を適宜発信していただいたほか、保護者進路説明会にあわせて年間2回生徒向け進路説明会を実施した。その他については、授業時間確保が優先される状況や集団活動を行いにくい社会的状況もあり、十分に実施することができなかった。来年度はコロナ流行が鎮まり、例年通りの取り組みが行えるように願っている。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【施策２　道徳心・社会性の育成】［人権を尊重する教育の推進］ 道徳人権教育委員会を通して道徳授業の進め方を議論し、各学年の進捗状況を定期的に報告し、集約をした。自他の人権を尊重できる態度を育てるため、生徒同士や生徒と教師間のコミュニケーションを大切にした教育活動を行った。また、人権作文、人権ポスター等の掲示をして人権問題への生徒の興味や関心を高める工夫をした。学校生活に関するアンケートでは、「学級・学年でいじめがおきない雰囲気がある」という質問に対して83%の生徒が肯定的に答えた。
【施策２　道徳心・社会性の育成】［インクルーシブ教育システムの充実と推進］ 教育委員会作業療法士による巡回相談を10月22日に実施した。特別支援学級在籍生徒３名について助言を受けた。集中が持続しにくい生徒について、体幹などのトレーニングによって体の使い方の改善が見られるという助言があった。また、特別支援学級在籍生徒の進路選択について、助言をもとに学期末懇談で保護者に情報提供をすることができた。個別の教育支援計画を使い、生徒一人一人の教育的ニーズに対して、指導及び支援を行うことができた。
【施策２　道徳心・社会性の育成】［芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出］ 【吹奏楽】一般生徒の吹奏楽に親しむ機会として、今年度も文化発表会での演奏をすることができた。それ以外にも校内での発表機会を模索していく。 【芸術鑑賞】厳しい感染状況ではあったが生徒を２分割し、2回公演で芸術鑑賞を行うことができた。人権をテーマにしたトークショーでは、生徒の感想に「とても心に残る話だった。」「差別の恐ろしさを知った。人種や国籍が違っても同じ人間であることに変わりわなく、みんな平等であると改めて感じた。」という感想を寄せていた。生徒の満足度は９８％であった。
【施策３　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】［保護者や地域住民に開かれた学校運営］ 学校HPの更新（１月末現在303回更新・昨年度363回）を日常的に行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で更新制限が発生するなど、諸問題により更新回数を増やすことができなかった。一方、アクセス数は（1月末現在：約71198件（2月6日）・昨年：60554件）と大きく増加した。この結果から変災時のHPの役割の大きさを痛感し、より正確で迅速な更新・発信をしていかなければならないと感じた。また、「学校だより」は定期的に発行（月1回）することができた。 今年度も吹奏楽部は菅原・新庄・下新庄各地域の行事等に参加する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から実施することができなかった。 なお、1月に実施した「学校生活に関するアンケート（保護者用）」では「学校はホームページなどで学校の様子がよくわかる等、情報を提供し開かれた学校になるよう取組んでいる」という項目に対して肯定的に答える保護者のの割合は昨年度の85%から〇%に上がった。

次　年　度　へ　の　改　善　点

【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】［生活指導］

「時間を守る」指導については来年度も徹底して行い、遅刻が常態化している生徒には引き続き個別に声掛けを行っていく。「言葉使いをていねいにする」指導についても来年度も継続して行い、集団生活をよりよく過ごす為に必要な態度として定着するよう指導をする。また、社会生活を送る上で大切である「挨拶をする」ということにも力を入れ、挨拶をする習慣が自然と身につくように日常生活から取り組み、指導していく。不登校の生徒に対して、学校（教員）のみで対応するだけではなく、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーや子育て支援室など外部機関と連携し、将来の社会的自立に向けて、柔軟で弾力的な関わりと状況に応じた多様な支援を来年度も継続して行っていく。

【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】［防災・減災教育の推進］

今後も、各学年で段階に応じた防災学習を計画をしっかりと立てて行っていく。またそれとともに、様々な場面で防災、減災の意識を持つよう話をしていくことで、災害に対し主体的に命を守る行動をとれるよう指導していく。

【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】［安全教育の推進］

日頃から一人ひとりが規範意識を高め、自らを律することの大切さを、改めて確認させる。様々な状況に応じて考え、責任のある行動がとれるように指導する。
来年度も引き続き、外部機関と連携し、「非行防止教室」「薬物乱用防止教室」「交通安全教室」を実施し、ルールに対する意識向上につなげる。情報モラルに関しては、外部機関と連携し、日々変わる問題を理解し行動できるようにする。教職員も現状を知り、日々変わる問題に対応できるように知識・理解向上につなげる。

【施策２　道徳心・社会性の育成】［道徳教育の推進］

道徳の評価については、ここ数年間一定の基準があり、このまま継続していく方向が望ましいと考える。そのため、来年度以降も同じ方法で行えるように、引継ぎをしっかりと行う。また、今後の動向も考えながら柔軟に対応していくためにも年度末に反省点の確認をしていきたい。また、授業に関しては新任の先生方でもしっかり授業ができるように、読み物教材の指導要点集を活用できる体制づくりと、周知徹底を心がける。

【施策２　道徳心・社会性の育成】［キャリア教育の充実］

来年度も2年生秋の『職場体験学習』を継続し、また例年の『SPトランプを使用したキャリア学習』『各種学校・専修学校を利用してのキャリア体験学習』を実施したい。『職場体験学習』は好評だが、事業所の受入れ態勢の差、教員の負担を考慮しながら、内容・方法等を検討する必要がある。また今年度不可だった所も含め、校区内外の事業所に来年度以降もご協力をお願いしたい。卒業後の進路選択が多様化しており、高校等でもICT化など教育改革が進む。『進路の手引き』を充実するなど、情報共有できるように工夫を重ねる。

【施策２　道徳心・社会性の育成】［人権を尊重する教育の推進］

登校指導や休み時間などでの教師生徒間のコミュニケーションを大切にすることで安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている。しかし時折、生徒間で他者の人権を守れていない言葉が発されることがある。人権学習を通して他者の人権を尊重できるきっかけにしたい。

次　年　度　へ　の　改　善　点
【施策２　道徳心・社会性の育成】［インクルーシブ教育システムの充実と推進］ 巡回相談で得られた助言を特別支援学級在籍生徒だけでなく、通常学級においても活用できるよう校内での連携を整え、教育活動を進めていく。また学年末には、個別の教育支援計画の最終評価を保護者と共に行う予定である。次年度への引き継ぎをし、今後も教育的ニーズに対して指導・支援をしていく。
【施策２　道徳心・社会性の育成】［芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出］ 去年より、新型コロナウイルスの対応により、芸術を鑑賞する機会が多々失われてきたが、本年度は感染予防に気を使いながら文化発表会で合唱を取り入れることができた。また、昨年同様、演劇・吹奏楽の鑑賞も行った。文化発表会後の事後アンケートでも９０％以上の生徒が、文化発表会を鑑賞して「大変良かった」と回答している。来年度も感染予防をしながら可能な限り芸術・吹奏楽に親しむ行事を実施していく。また、１１月に行われた芸術鑑賞では、世界的なジャグリングパフォーマンスに加え、人権を交えた講演会を取り入れた。生徒の事後アンケートでは、９３％が「よかった・大変良かった」と肯定的な回答をしている。 吹奏楽については、昨年度中止になった東淀川区中学校音楽フェスティバルが撮影という形で行われ、地域に貢献することができた。来年度以降も、多くの場所で発表できるようにしていきたい。
【施策３　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】［保護者や地域住民に開かれた学校運営］ HPの更新回数を現時点で昨年度より増加することができなかった。新型コロナウイルス感染症対策の影響で行事等が制限された事や情報の発信機会が少なかったこと、アクセス集中による更新制限などが原因の一端でおあるが、今後もコロナ禍におけるHPの役割は重要で、更新回数のみならず、できうる限りの生徒の様子や本校の状況を保護者・地域に発信できるよう工夫していく。また発信する場合は、個人情報やその他法令等を尊守し、細心の注意を払って発信していきたい。

大阪市立新東淀中学校　令和３年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年　度　目　標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校）（再掲） ○令和３年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○令和３年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均の７割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント以上減少させる。 ○令和３年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント以上増加させる。 ○令和３年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、過去の記録から課題となる全国平均を下回る種目について記録を向上させる。 学校園の年度目標（再掲） ○令和３年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を７０％以上にする。 ○令和２年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、平日１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない」と答える生徒の割合を４０％未満にする。 ○令和２年度末の校内調査において、「自分の健康に関心をもっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を８５％以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】		B
取組内容	［国語］ 国語に対する関心・意欲を高めるため、ＩＣＴや視聴覚教材を活用する。また、授業での漢字の練習を通じて、基礎学力の定着・向上を図る。 さらに理解度に応じてワークブックやプリントなどを用いて読解力を高めるとともに、ペアワークやグループワークを適宜行い主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	
指標	週1回以上の授業で漢字の学習を行ない、単元ごとにICTを活用した授業を行う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】		B
取組内容	［社会］ 社会的事象を多角的な視点から主体的に思考する力や豊かな表現力を身に付けさせる。	
指標	定期テスト等において社会的事象への思考・判断・表現に関する問題を必ず出題する。ワークシートや課題等で調べたことや考えたことを表現させるとともに、長期休業中の調べ学習などの課題提出の割合を９０％以上にすることを目標とする。	
取組内容	［数学］ 毎回の授業で復習問題を行う。（基礎基本の定着） 個別や到達度別の補習・質問教室を行う。（個々の状況に応じた学力向上）	B
指標	自分の力でできたと実感できる生徒を90％以上にする。（アンケート実施）	
取組内容	［理科］ 興味・関心をもって授業に取り組むために、実験・観察を学期に３回以上行う。また、科学的な思考・判断・表現ができるようにレポート作成を行う機会を年間３回は行うようにする。	B
指標	実験プリントの完成・提出を90％以上、長期休業中の自由研究等の課題提出の割合を９０％以上にすることを目標とする。	
取組内容	［音楽］ 様々な音楽を通して、音楽知識の定着、歌唱や楽器演奏の表現力向上を目指すと共に音楽への興味・関心をひきたて、音楽を愛好する心や豊かな感性を育む。	B
指標	各学年とも１・２学期に１回ずつ歌唱テストを、楽器演奏やリズムに関する実技テストを学期に１回以上行う。音楽の授業を楽しく学べたと答える生徒を80％以上にする。	
取組内容	［美術］ 授業開始後5分間でスケッチを行い、画力の向上を目指す。また、アイディアやひらめきなどの感性を豊かにし、個性を生かし育てる。	B
指標	美術の創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、一人でも多くの生徒が授業を通して美術の楽しさを学べる割合を８５％にする。	
取組内容	［技術家庭］ 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、社会の変化に対応しながら、実践的・体験的な学習活動を通して指導を行っていく。	B
指標	反復基礎練習、作業確認が多く実施できるように、ICTなども活用する実習計画をたて、９０％の課題達成や技能習得を目標とする。また安全に実習が行えるよう機器・工具・道具類の整備を定期的に行う。教科内での評価や研修内容などを共有し指導に生かす。	
取組内容	［英語］ 新学習指導要領に基づいて、外国語によるコミュニケーションの見方、考え方を学ぶ取り組みを実践的に行い、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えることができる能力を育てる。	B
指標	ICT機器等を積極的に活用し、C-NETとの連携を図りながら生徒が実践的に英語に触れる機会を多く作る。また、生徒の習熟度別に応じて指導を行うためにC-NETと教案を作成しT.T.での授業を充実させる。また、生徒のアンケートにおける「習熟度別授業によって英語が以前より分かるようになった」に対し肯定的に回答する生徒の割合を80％以上とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】		B
取組内容	［学力向上を図るための学習支援の充実］ 生徒一人ひとりの基礎学力の定着に向け、学びサポーターを年844時間配置するとともに、教育委員会より配信されている学習教材のデータを活用して生徒への学習支援の充実を図る。	
指標	校内アンケートにおける「授業内容が分かる」 に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする。	
取組内容	［図書室を活用した言語力の定着と向上］ 生徒が本に触れ、読書に親しむ態度を養い、日常生活における読書活動を活発に行ってみたいと思えるような図書館、生徒が主体的に資料や情報を収集・選択できる図書館を目指して、図書館の室内環境・機器を整備するとともに、図書室だよりの発行などの広報活動を積極的に行って利用生徒数の増加を図る。	B
指標	図書館の利用生徒数を前年の１０％増を目標とする。	
取組内容	［放課後等を活用した自主学習支援］ 学校元気アップ地域本部事業と連携して、「放課後自主学習室の開放」「長期休業中自主学習室の開放」等を行う。また、小中連携の一環として、「親子漢字検定」「親子英語検定」を実施して、生徒の自主学習を支援する。	B
指標	土曜日自主学習会の実施、放課後及び長期休業日の自主学習室開放を年150日以上、参加生徒数は延べ1,500人以上を目指す。 また、「親子漢字検定」「親子英語検定」を年１回実施する。	
取組内容②【施策5　健康や体力を保持増進する力の育成】		進捗状況
取組内容	［生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実］ 体力・運動能力向上のため、グループ活動を充実し、基礎的な知識及び技能の習得をはかる。目標設定を具体的に用紙に記入することで、生徒自身が各種目の記録から、自らの課題を解決していけるよう学習を推進する。また、集団行動を徹底し、規範意識を高め、健康の保持・増進と体力の向上に必要な思考力・判断力・表現力の育成を図る。さらに、タブレット等のICTを活用し、授業展開の幅を広げる。 生徒が運動やスポーツに楽しく参加できる体育的行事として、「水泳大会」や「体育大会」、「マラソン大会」や「球技大会」などの行事をコロナ感染状況に応じて推進する。また、生徒自らが積極的に運動やスポーツに取組みたくなるよう「トレーニングルーム」の施設を活用し、運動やスポーツに取組む機会を拡大することにより生徒の体力・運動能力の向上を図る。	B
指標	①体育授業が「楽しい」と答える生徒を８０％以上にする。 ②実技において「技能習得ができた、わかった」と答える生徒を８０％以上にする。 ③年間の体育的行事を3回以上実施し、運動に親しむ機会を作る。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容	［健康に関する現代的課題への対応］ 感染症予防のため、家で過ごすことが多くなり、携帯で夜遅くまでゲームやSNSなどをしている生徒が増えている。そのため、十分な睡眠が取れず、起床が遅くなるなど、生活リズムが崩れる原因にもなっている。昨年に引き続き、保健委員による睡眠時間や衛生面などに関する保健調査を週２回継続的に行い、手洗い・うがい、消毒、マスク着用の徹底など感染症予防への呼びかけなどを委員会活動として活発化させる。また、月１回、ほけんだよりを発行して、生徒の健康への意識、関心を高める。	B
指標	月1回保健だよりを発行する。週2回の保健調査を年間を通して実施する。保健委員の取り組みに対する理解度を計る事後アンケートで肯定的に回答する生徒の割合を8割以上とする。	
取組内容	［食育の推進］ 日々の昼食指導を行いながら、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。各学年1回以上「食育」に関する取り組みを行う。月１回「食育だより」をHPに掲載し、廊下等に今日の献立を掲示することで栄養素や食材について生徒が興味を持てるようにする。各教科と連携し「食」の重要性を理解し、食について興味を持てるよう食育を推進する。	B
指標	食に興味を持てた生徒が全生徒の８０％以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［国語］

漢字の定着のために、全学年で週に１回の漢字テストを行った。また、感想文や意見文を書かせたり、データの読み取りや分析などを積極的に行っている。1年で秋に取り組んだリーディングスキルテストの結果を分析すると、すべての項目において中学生平均値を－0.3下回る結果になった。文章を「正確に読むこと」が出来ていない生徒が多くいる現状が浮き彫りになった。今回は1年生対象のテストであったが、全学年にも共通して言えるであろう。それを踏まえて授業ICTや視覚的資料の活用や、データ解析などを積極的に授業に取り入れていくことが課題として挙げられる。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［社会］

１年生：定期テスト等において社会的事象への思考・判断・表現に関する問題を必ず出題し、それにあった授業展開を各授業の中で行った。ワークシートや課題等で調べたことや考えたことを表現できるように、万が一の学校休業に備え自主課題プリントの準備を行った。長期休業中の調べ学習などの課題提出の割合は概ね70%を超えたが、90%は達成できなかった。学年末テスト時の課題提出割合を上げられるよう引き続き声をかけていきたい。

２年生：定期テストでは、社会的事象への思考・判断・表現に関する問題を必ず出題した。また、日頃から自らの考えを表現させる習慣づくりを行い、テストの記述問題での回答率を指標とした。その結果８４．８％であった。長期休業中等の課題提出の割合は、８０．６％であった。

３年生：『長期休業中の調べ学習や課題提出など、生徒たちにあらかじめ予告し、おおむね80%は達成できた。しかし、調べたことや考えたことを表現させる時間は授業中には十分にとることができなかった。これはチャレンジテストや私学入試まで決められた範囲を学習することが最優先であったためである。』

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［数学］

年間通して、ほぼ毎回の授業で、はじめに計算練習や以前の復習を行ったり、終わりにはその授業内容の練習問題を行うことができた。そして、授業中や朝学習、休み時間、放課後など様々な場面で個別対応の機会を増やすことができた。指標にしている、自分の力でできたと実感できる生徒を９０％以上については、テストごとにアンケートを取り、自分の力で解けた問題があるの項目では、年間トータル、１年生９３％、２年生９７％、３年生９１％だった。２学期中間テストでは９０％下回ることもあったが、２学期期末で大きく数字を上げることができた。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［理科］

理科室で実験を積極的に行うことができており、実験回数・レポート作成回数共に、学期に３回以上という目標を上回っている。生徒たちも理科の実験に興味関心を持って取り組むことができている。実験レポートの提出率や夏休みの自由研究の提出率も概ね目標の９０％を達成しており、文化発表会での自由研究の発表も充実していた。また、１年生ではＩＣＴを活用した取り組み、2年生では教え合い活動、３年生では入試対策講座など各学年で工夫をして積極的に教材研究を行うことができた。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［音楽］

今年度は感染対策で通常の歌唱やアルト笛の練習を１学期は見合わせていたため、手拍子によるリズム演奏や指揮練習、タブレットを使用したリズム合奏など、違った形式の実技指導を取り入れた。２学期には歌唱指導を開始し、合唱コンクールも行うことができた。アルト笛の指導では、なるべく個別で演奏指導を行い、笛が苦手と感じることがないように、同じ曲を繰り返し練習した。歌唱テストでは感染対策で今年度も別室で行ったが、まわりを気にせず実力を発揮できるため、生徒のやる気も高まり、個別の指導もしやすく、実技演奏の向上につながった。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［美術］

感染症対策の観点から、3年生の自画像の取り組みや1年生の班活動の制限はあったものの、制作進度は例年とほとんど変わらない状況。ただし、コロナ不安による欠席やワクチンの副反応による欠席で週一回の授業である美術は欠席が数回だけでも制作進度はかなり遅れてくる。その生徒の配慮をするにしても限界があり、授業に参加してる生徒と同等の作品は仕上がりにくい状況である。今後は欠席が多くなっている生徒に対して細かな一人一人に応じた配慮を行っていきたい。授業に参加できている生徒の作品の進度は順調で、作品制作に関しては問題なく例年と同じ進度で行うことができている。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［技術家庭］

実習館を確保するために、授業プリントやICTを用いることにより、例年と比べ大幅に時間を確保することができた。また、感染予防を考えながら、教材の工夫や、実習室や用具の整理・点検・準備を丁寧に行い実習を行った。また、知識や技能の定着のために、実習とリンクしたプリントでの基礎の確認と復習をおこなったり、実習の進度が遅れている生徒に対して補習など行った。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［英語］

グループワークの発表のときにタブレット端末のビデオカメラ機能を使って互いの発表を録画して自分の発表を振り返えり、またその動画を評価に利用するなどICT機器を様々な方面で効果的に活用できた。
またデジタル教科書やパワーポイントは引き続き活用し、英語が苦手な生徒に視覚的なアプローチをしながら指導を行った。自分の意見や考えを英文でまとめて発表したり、まとまった英文の読解やリスニング活動を定期的に取り入れ、4技能をバランスよく習得できるよう工夫を重ねた。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［学力向上を図るための学習支援の充実］

生徒一人ひとりの基礎学力の定着に向け、校長経営戦略予算を活用して学びサポーターについては、６名の方に週９回計33時間（総時間数798時間：1月末）の配置をした。また、校長経営戦略予算を利用して大型テレビを購入し、特別教室等で使用し、より充実した授業が行えるよう整備した。放課後学習等で使用する自主学習ルームには校長経営戦略支援予算を活用して、教科書ガイドの問題集や受験対策として参考書を備え、学校元気アップ本部事業の方々の協力も得ながら、生徒が自主的に活用できる環境を整備した。
なお、1月に実施した校内アンケートにおける「授業内容が分かる」という項目に対して肯定的に答える生徒の割合は昨年度の82％と同じ結果となった。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［図書室を活用した言語力の定着と向上］

月に1回「図書だより」を発行したり、書架の工夫、文化委員による本の紹介などを行い、継続的に図書室の利用の促進に努めた。感染症対策を講じながら昼休み・放課後を使って２月1日までに計194回図書室を開館できた。平均来館者数は昼休み１７名、放課後4名で、延べ利用者数は１８９４名であった。貸し出し冊数は計1252冊、開館1日あたりの平均貸出冊数は9冊で昨年度とほぼ同じ結果となった。

【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［放課後等を活用した自主学習支援］

学校元気アップ本部事業の活用により「土曜自主学習会」や「放課後自主学習室の開放」を１月末までに合わせて182回行い、延べ831名の生徒の参加があった。本年度も感染症対策の観点から学習会の開催を見合わせる時もある中、昨年度よりも多くの参加があり、自主学習習慣の意識が定着されつつあると感じている。また、8月に実施した「漢字検定」には32名、10月に実施した「英語検定」には80名、1月に実施した「英語検定」には34名（両検定とも本校生徒のみ）の参加があった。両検定への参加者は年々増加し、定着してきている。特に上位級の受検者数が増加している。

【施策５　健康や体力を保持増進する力の育成】［生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実］

①保健体育科アンケートでは、男女合計で９１％の生徒が「楽しい」と肯定的に回答していて、目標を達成することができた。
②体育授業において、「技能習得ができた・わかった」と答えた生徒が９０％を超えていた。
本年度、保健体育として新たなICTを取り入れた取り組みを行うことができた。（オリンピックレポートの作成ととプレゼンテーション、発表会という流れ）
授業ではグループ活動を積極的に行い、自分たちで指示を出し合える仕組みづくりをし、リーダー育成に努めた。また、各種目で学習カードを作成し、自分の記録を見ながら、自らの練習課題をクリアしていく授業展開を行うことができ、体力向上へ意欲的に取り組む仕組みづくりを行うことができた。
③体育的行事については体育大会を実施することができた。また、授業内での実施になったが、校内マラソン大会として各学年で実施することができた。その大会に向けて、各自体力向上に向けて取り組んだ。3月に球技大会を行い、運動習慣を身に着ける一環として行う予定である。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【施策５　健康や体力を保持増進する力の育成】［健康に関する現代的課題への対応］ 月１回の「保健だより」の発行、週２回の保健委員による健康調査や給食前の放送で健康に対する興味・関心を高めることができた。また、１年では感染予防のため各クラスでの学習に変更して「歯と口の健康教室」を行った。今年度も昨年に引き続き、学校医を招いての学校保健委員会も中止となったが、各学年の保健行事の取組や保健室の利用状況などをまとめた冊子を参加者に配布している。今後も保健行事や保健だよりを通じて生徒の感染予防や健康維持への関心を高めていきたい。
【施策５　健康や体力を保持増進する力の育成】［食育の推進］ 食育についての授業を各学年１回行った。１年生は朝食について、２年生は肉について、３年生は食事についての授業を行った。食育についての授業後にアンケートを行い、「食事(食べること)に興味を持てるようになりましたか？」の回答で、興味を持てるようになった生徒が６８％、少し興味を持てるようになった生徒が２４％であった。校内２か所に本日の献立を掲載し、栄養素や食材について生徒が知識を得られるようにした。給食時に保健委員の放送で黙食を促すとともに本日の献立、食材や栄養素について放送を行う日を設けた。日常生活で「食事(食べること)に興味を持っている」生徒が８７％となっている。

次　年　度　へ　の　改　善　点
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［国語］ 漢字小テストの実施と、間違えたところの復習を繰り返させて定着を図る。また、感想文や意見文を積極的に書かせる。文章を書くことへの抵抗感をなくしていく。リーディングスキルテストの結果を踏まえ、問題提示、発問、板書計画、学習プリントの作成など、授業改善をＲＳＴの視点から実施する。また、引き続きICTや視覚的教材を使い学習への意欲向上に取り組んでいく。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［社会］ 資料を積極的に提示するなどして生徒の興味・関心を引くことができる授業づくりを行うとともに、課題の提出率を上げるために声掛けをさらに積極的に行う。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［数学］ 個別対応のさらなる強化。特に数学に苦手意識を持つ生徒に対して、１問でもできたと実感できる問題を増やしていきたい。小学校からの積み重ねの教科なので、中学校の内容のみがんばっても本当の理解にならない部分もあるが、丁寧にサポートし、自発的な学習意欲へとつなげていきたい。指標とはしていないが、アンケートにおいて、テストで目標を達成できたかどうかの質問では、１年１８％，２年２７％，３年３３％だった。テストの点数のみを目標設定にするのも良いとは限らない。この問題は必ず正解するなど、目標の設定方法の指導も行い、目標達成につながるサポートをすることで学習意欲を引き出していきたい。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［理科］ 今年度も行った夏休みの実験講座はとても好評で生徒たちの興味関心を引くことができた。来年度も引き続き継続していきたい。課題は計算やグラフの読み取りなど、理科では必要不可欠なスキルが習得できていない生徒が多いため、興味関心を持たせながら問題演習なども行っていく必要がある。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［音楽］ 今年度はアルト笛の授業をどの学年も２学期中心に行うことができた。また、デジタル教科書で運指や音をわかりやすく表示して、練習に活用している。合唱・打楽器合奏ではタブレットを使用するなど、昨年度より効率よく実技指導を行えている。和楽器の指導を見送っているので、来年度は再度計画して行っていきたい。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［美術］ 制作進度に遅れが見られる生徒に関して、放課後等の事後指導の徹底をはかり、適切な配慮による事前指導も行っていきたい。加えて、コロナ不安による欠席やワクチンの副反応による欠席で、欠席回数が非常に多い生徒に関しては、個別対応をとるなど今年度の感染症の状況に合わせて配慮していきたい。また、タブレット越しに授業終わりに話しかけ個別で分からないところを聞くなど実技教科のオンラインの難点を克服する取り組みを継続していきたい。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［技術家庭］ 昨年度と比べ、実習時間が多く取れていることもあるので、作品の完成度を高めていき、より高い技術と知識の習得を図っていきたい。また、今より多くの実習時間を確保するためにICTの活用や授業プリントの工夫をしていきたい。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［英語］ 引き続きICTを効果的に活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。 また習熟度別指導を充実させ、指導と評価の一体化のための学習評価を行う。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［学力向上を図るための学習支援の充実］ 生徒一人ひとりの基礎学力の向上及び定着に向けて、引き続き、校長経営戦略予算を活用し、学びサポーターの配置や自主学習室に備える参考書・問題集の充実を図っていく。また、生徒自らが家庭で学習をする機会が増やし、授業の復習をして基礎学力の向上及び定着を図る習慣づくりのための工夫して取り組む。

次　年　度　へ　の　改　善　点
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［図書室を活用した言語力の定着と向上］ 感染症対策を講じながら開館を続けることができた。今後もなるべく開館日を多く設けて読書に親しむ機会を提供していく。委員会活動を通しての本の紹介や書架の配列の工夫など、貸出数が増えるような取り組みを継続していきたい。
【施策４　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】［放課後等を活用した自主学習支援］ 自主学習室の利用数は安定はしているが、感染症対策の観点からも利用状況を把握し、目標設定を考えなさなければならない。しかし、未だ利用していない生徒もたくさんいるので、この現状を踏まえたうえで開館情報などを生徒に周知できるよう工夫していく。また、未利用の原因が感染症への不安等などの理由の場合は、感染症対策を十分に講じて不安解消できるようにしたい。
【施策５　健康や体力を保持増進する力の育成】［生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実］ 来年度も今年度のような状況が続いていたとしても、感染予防に気を付けながら、工夫を重ねてできることを授業で展開していく。 また、体育好きな生徒が少しでも増えるような仕組みづくりを、教科会を通して、体育科全体で工夫していく。 体育的な行事についても、協議を重ねながらできる限り実施していく。
【施策５　健康や体力を保持増進する力の育成】［健康に関する現代的課題への対応］ 来年度も保健だよりの発行、保健委員による健康調査は今後も引き続き実施し、,調査の集計結果からクラスや学年に現状を呼びかけ、改善を図らせたい。また委員による目標掲示や健康に関するポスターや放送を通じて、感染予防への意識を高めていく。また、引き続き、手洗いやアルコール消毒・換気など、感染拡大を予防する対策を学校全体で取り組んでいきたい。
【施策５　健康や体力を保持増進する力の育成】［食育の推進］ 食に関する指導の全体計画を作成し活用しながら、食育の授業や各教科と連携して「食」の重要性を理解し、関心を持つよう食育を継続して行っていく。また、食に興味を持てるような様々な取り組みを継続して行っていく。

大阪市立新東淀中学校　令和３年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年　度　目　標	達成状況
【その他】（再掲） 〇２月の小学６年生アンケートで、「小中連携の取り組みで４月から始まる中学校生活の参考に なりましたか？」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を９０％以上にする。 〇令和３年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、 肯定的に答える生徒の割合を８０％以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策６　施策を実現するための仕組みの推進】		B
取組内容	［小中一貫教育の充実］ 中学校進学への不安軽減や、小・中学校の教職員の協力した教育課程による学力向上をめざし、 本校の「小中連携アクションプラン」に基づく小中合同研修会の開催・公開授業などの小中一貫した取組を推進する。	
指標	２月の小学６年生アンケートで、「小中連携の取り組みで４月から始まる中学校生活の参考になりましたか？」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を９０％以上にする。	
取組内容	［若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実］ メンターの活用を通して組織的な若手教員の育成に取り組みについて教員相互の学び合いにつながる校内ミーティングや高校回りなど、メンターの活動を各学期に２回以上実施する。また、全教員が年間１回以上の授業研究・相互参観を伴う校内研修を実施するとともにワークショップ型の研究協議をはじめ、教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。	B
指標	研究協議後のアンケートで、「若手教員の指導力や授業力向上への意識が、メンター研修や校内授業研修週間を通して高まった」と肯定的な回答の割合を87%以上とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策６　施策を実現するための仕組みの推進】［小中一貫教育の充実］

全体会・分科会をおこなうことができていない。また、中学校に旧小6の先生方に来ていただいて、授業参観・情報交換をおこなうこともできていない。9月の公開授業週間では、小学校の先生にも中学校の授業を見ていただく機会を作ることができた。新庄小学校のみであるが全校集会に参加させていただきお話をさせていただいた。菅原小学校では芸術鑑賞が急遽中止になったため、本校の文化発表会の映像を観賞していただいた。「中学校についての講話（12/3・12/6・12/22）」についてはオンラインでの実施もふくめてすべて実施することができた。「部活動体験」は今年度も中止として、部活動紹介と新中の一日というDVDを各小学校で見ていただいた。「小学校の授業見学（1/24）」は感染状況が拡大したこともあり、新庄小学校のみ実施した。菅原小学校と下新庄小学校は後日日程を調整することとした。2月末から3月初めにかけて本校生徒会と児童会の交流もオンラインでの実施を検討している。小学生にアンケートをとりたいが、2月末まで小学校訪問が延期になっている点からその後のアンケート実施になるので、指標の達成状況については3月初めに把握をすることとする。

【施策６　施策を実現するための仕組みの推進】［若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実］

1学期と2学期に1度ずつメンター研修を実施した。1学期の研修では、学級経営の仕方や授業づくりを中心にそれぞれの悩みや意見交流を行うことで若手教員の不安を軽減することができた。2学期のメンター研修では、OJTの先生にも入っていただき、「1学期の反省点と2学期に向けて」というテーマで意見交流を行い、若手教員の意識を向上することができた。
校内研修学力向上の取り組みとして、今年度の状況からできる範囲での、公開授業、研究授業、研究協議会を目標通り執り行うことができた。授業研修週間についてアンケートを実施した結果、良くなかったという意見がなく、また「先生は、教え方を工夫している」の項目について肯定的に答える生徒の割合は91％であった。公開授業、研究授業を通して、授業をする側見る側双方にとって、授業力向上への意識を高める良い機会になったと考える。

次　年　度　へ　の　改　善　点

【施策６　施策を実現するための仕組みの推進】［小中一貫教育の充実］

小中連携は子どもだけでなく教員のためにも必要なことであると再認識する必要がある。すべての教員が目の前の現状だけでなく9年間を見据えた教育を意識することが大切だと感じた1年であった。来年度は特に、授業の在り方についての意識を4校で深めていきたいと考えている。特に学力向上については急務の課題である。中学校・小学校の授業見学の機会を多く作り、よりつながりのある授業実践につなげたい。

【施策６　施策を実現するための仕組みの推進】［若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実］

コロナの影響から昨年と同じ形式で校内研修を実施した。小学校の先生や他教科の先生との交流など、良き機会となったため、研修方法を工夫しながら来年度も続けていきたいと考える。また、今年度の反省とアンケートの集計結果を活かし、次年度以降の研修活動に繋げていきたい。
メンター研修を定期的に行い、活発な意見交流をすることで若手教員の能力向上につなげていく必要がある。また意見交換会以外にも何か違った形で若手教員の能力向上のための企画を考えていきたい。